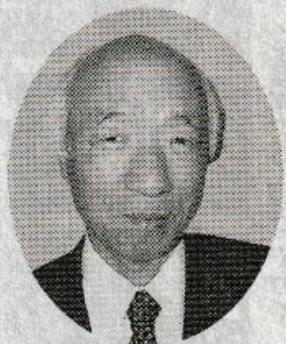


中経

論壇

経営支援NPOクラブ
監事

中谷 兼武



2020年1月、初めて日本に新型コロナ感染が認められてから3年弱になるが、感染の不安は今も続いている。この3年間で、私達はコロナ

感染予防について、多くの習慣が身に付いたように思われる。大辞林で「習慣」を調べると「そうすることが決まりのようになつている事柄」とある。コロナ禍による私達のマスク着用をうまく言いつてていると思う。コロナ感染の重症化の低下などの理由から、「メリハリのあるマ

スク着用を」と政府が訴えても、巷間では習慣化したマスク着用は減らないようである。道行く人や自転車に乗っている人もマスクをしているがほとんどであり、マスク姿は日常の光景として定着している。

もともとマスク着用の習慣のない欧米では、コロナ感染予防としてのマスク着用に対し賛否両論があり、日本ほど着用率が高くない状況である。一方、我国においては、コロナ重症化の低下、経済活動促進等で、首相がメリハリのあるマスク着用を訴えて、5SやQCセークル活動などの普及

は減っていない。非マスクの習慣に戻るのは、コロナの治療にめどが立ち、外国人旅行者の増加により、街中にマスクなしの人が増えてからではないかと思われり、幸いにも、日本人の特徴ではなかと思われる。農耕民族としての集団では、その活動が定着し

私は、ものづくりの世界に長く携わり、幾度となく同じような習慣化の経験をしてきた。ものづくり現場のQ・C・D改善の手法として、のづくりの原点として普遍性を持つているのだが、現状を

習慣化して、日本のものづくりの基本が確立したと考えられる。そして、日本のものづくりは、世界でダントツに評価されることになつたと思う。こうした現場改善は、もとのづくりの原点として普遍性を持つているのだが、現状を見ると、新製品の開発遅れが、日本の製造業の地位の低下を要するのは、I.Tが進んだ今も変わらないだろう。かつて、5SやQCセークル活動などの普及において、変えなくてよいものがある。日本のものづくりにおいて、慣性に流れることなく、変えなければならないことを見出しが、今求められている。

ものづくりと習慣

変えなければならぬこと見出して